

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300860		
法人名	有限会社 日本サポートリンク		
事業所名	色えんぴつ・鈴鹿		
所在地	三重県鈴鹿市下大久保町2290-12		
自己評価作成日	平成27年7月28日	評価結果市町提出日	平成27年10月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JivovsvoCd=2470300860-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JivovsvoCd=2470300860-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27年 8月 19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在重度化された方が多くなり、なかなか思うような支援ができない場面が多くなってきた。しかしその様な中でもできる限り一人一人に寄り添った支援ができるよう日々努力している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四日市市との境に位置した住宅団地の一角に建つ事業所は、グループホームのあり方を常に問い続けている施設長と経験豊かな管理者のもと、重度化になっていく利用者一人ひとりにその人らしい暮らしが実現できるような場面で『理念』に照らし合わせ寄り添うケアを日々実践している。利用者本位のケアを小さな事例ひとつから考え職員のスキルアップを進めている。調理専門の職員が作った昼食を利用者と職員がともに食し歓談する様子は、和やかな空気が流れており楽しく、頼もしい事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今まで暮らしてきた生活習慣をできる限り維持でき、「その人らしい暮らし」を地域の中で実現できるよう取り組んでいる。	管理者と職員は小さな事例とともに振り返り、『その人らしい暮らし』ができるよう支援をしているか日々確認し、理念に照らし合わせ職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年一回の夏まつりに参加をし、近隣の幼稚園と連絡とり、参加できる行事には参加をしていこうと試みている。	地域夏祭りには事業所用のテントも用意され、楽しみに参加している。市の広報紙を自治会長自ら届けていただくなど地域の一員として交流している。近隣の幼稚園との交流も企画中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通しご家族や自治会長様・民生委員様の認知症の方の介護の方法や悩みなどの話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、利用者様や施設で行っている日々の活動を報告、また会議の場でご覧いただくとともに、サービス内容についての意見などを聞き、その意見を踏まえた方針を考えている。	運営推進会議を概ね2カ月毎に開催しており、事業所内の様子を見学してもらい活動報告や話し合いを行っている。また、その時期の課題(感染対策他)や理念に沿ったサービスができていないかを振り返る場に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度、利用状況の報告を行い、運営推進会議への参加をお願いしている。	市役所・地域包括センターとは頻繁に連絡を取り合い、研修会に参加する等よりよい関係継続に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は、玄関に施錠を行っていたが、現在は施錠をやめ、支援を考える際は、身体拘束に当たるかどうかを考えて支援方法を決定している。	身体拘束・言葉の拘束の意味を考えてケアに取り組む大切さを共有し、玄関開錠へのリスク管理もできるよう利用者の心の動き・見守りに日々努力している。ヒアリハットの事例はその都度検証し再発防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、職員に高齢者の虐待に関する研修を受ける予定があり、また参加をしていない職員へもその研修内容を報告することで虐待について学ぶ機会する予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する研修の予定が決まっており、その研修内容を他の職員にも伝え活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分に説明する事を心がけている。また改定の際は、運営推進会議の場において報告しご家族様からも意見を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で話し合いや面会ノートに提案や要望コメントを頂いたり、こちらからの提案も面会時や運営推進会議の場などで伝え、ご意見を頂いている。	面会時に丁寧な声かけを心掛け、できるだけ具体的な意見を聞き取れる問いかけを工夫して家族の要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する報告は月一回の会議の場で職員に伝え、意見や提案などを聞く場とし、その意見を反映させられるよう努めている。	グループホーム本来の運営はどうあるべきかの問いかけとともに問題点を共有し、職員の意見を月一回の会議で聞く機会を設けている。職員より担当制の提案があり『意見がでたらまずやってみよう!』の方法をとり実践している。	会議での職員からの意見・提案を聞く機会を設けているものの、聞き取り方法等工夫を重ねていき運営に反映させることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や管理者評価などを行い、職員一人一人が目標を持てるようマンツーマンで話し合いを行い、業務の改善をしていけるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の能力を判断し参加する研修を促し会議の場において、研修内容の報告を行い内容を職員全体で共有できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の場において他事業所職員との交流をもち、またその旨を主とする研修会などに参加をし、他事業の支援方法なども参考にし支援を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームと言う共同生活の場所で過ごすことへの理解を含め、その方の過ごしてきた過去歴、これからも続けたい事など、本人の思いを聞き出せるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何故グループホームのサービスが必要なのか、ここでの暮らしは家族の思う暮らしであるのかなど、入居されてからも良い関係性が保てるよう話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	共同生活と言う場所での暮らしは安心もあるが、他利用者との関係性などその人にとって不都合な場合もある事を説明し、他のサービスでは今の生活が保てないのかどうかを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできる事はやって頂けるよう支援しながら、生活を送るなかで役割を持って頂き、一方通行な支援にならないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事もご家族と話し合いながら決定できるよう意見を伝えてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚等関係は色々あるが、今までの関係性を継続できるよう支援はさせて頂いている。しかし入居が長くなると段々と関係が途切れてしまう事も多くある。	元利用していたデイサービスに出かけたり、週末を利用して帰宅し家族と過ごす利用者への支援を行って、馴染みの場・人との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の好き嫌いは常にあるし、お互いが相手の認知症を理解できない事で孤立したりトラブルを起こしたりすることはあるが、職員があまり強く介入しない事で利用者同士の関係性が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じた、情報提供や相談等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに合った生活ができるようその人に応じた声掛け、支援、外出をしている。	1対1での時間以外にも利用者一人ひとりの日々の変化をなるべく見逃さず、家族との会話、本人のつぶやきや行動から思いや意向を把握し、職員で共有して支援を行うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様、本人様に話を聞きながら以前の暮らし方が連続してできるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時に心身状態を把握しながら、その場に合った声掛け、無理の無い過ごし方ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りや会議等で近況の報告し、意見交換をし、モニタリングしている。	日々の申し送りや月1回の会議にて状況報告と意見交換を行い、介護計画を作成している。また、利用者の状態や変化に応じて見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個別にケース記録に取っている。 気づき、変化があればその都度検討、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に応じたサービス、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日散歩してすれ違う人々との挨拶、又保育園児とのふれ合いを持って頂いている。その他月数回ドライブや買い物をして頂き、社会生活を愉しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期受診や健康相談を実施している。又適時家族様のご意向を受け病院への対応や準備を行っている。	本人と家族の意向のもと、協力医・かかりつけ医・眼科・整形外科等の受診・歯科の往診等、適切な医療が受けれるよう支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師に相談して援助をいただき、利用者様が適切な看護を受け入れるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに情報を提供し良好な医療を受けられるよう支援し、退院時は速やかにカンファレンスを実施し受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時は家族様のご意向を伺っている。実際に過去数人の終末期を経験したが、チームとして最善を尽くせたと自負している。	看取り指針を作成しており、入居時に意向を確認しているが、重度化した場合にはその都度協力医の意見とともに話し合いを行い、事業所としてできること出来ないことを説明し、家族の意向を確認しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し職員に周知徹底、急変及び事故時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設として年間計画表を作成し、隔月毎に各種の災害対策訓練を実施し、職員の安全スキルを養っている。	今年度連絡網を見直し、地域との協力体制を構築中である。2か月に1度さまざまな災害想定で防災訓練を行い、職員の防災スキルを高め、利用者の混乱を最小限にする訓練を模索し、慌てさせず大声を出さず落ち着いたなるべく非言語での訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの状況に合った生活ができるよう、その人に応じた声掛け、支援、外出を心掛けている。例えば声掛けに対し不穏になる人の場合は、一旦間をおき再度さりげなく誘うように心がけている。	トイレへの誘導・入浴・食事等、日々の生活支援の場面で利用者のプライドを傷つけることがないように注意をはらい、一人ひとりのプライバシー保護に気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を理解し、自己決定に繋がるように支援しているが、中々思うよういかない時も多々ある。その都度何が不足しているか反省し、次の支援に繋げるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間配分はあるが、個々の希望にそって生活できるよう努めている。その日の状態を把握し、変化に対応する事も大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月毎のヘアカットや定期的な手・足の爪切りを行っている。個々でお化粧をされたり、マニキュアをつけたりとおしゃれを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日昼食には、希望のメニューを取り入れ食べて頂いたり、季節の食材も利用しながら、季節を感じて頂いている。外食にも出掛けている。	庭園内の菜園で栽培された夏野菜の収穫を取り入れたメニュー、行事食、日曜日昼食のリクエストメニュー等、季節感や希望を聞き取って食事が楽しみなものになっている。職員からのプレゼントのエプロンをつけ片付けを日々行う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、3度の食事時・散歩・入浴後と飲んで頂いたり、いつでも飲めるようポットにお茶を入れて配置している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯みがきの実施をしている。自分で磨けない人はお茶を利用したブラッシング・口腔ケアティッシュを利用して口臭予防と清潔を保てるよう支援している。定期的に訪問歯科の受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、リハパンを中止し、布の失禁パンツにパットを使用している。夜間は、その日の様子を考慮して、夜勤者が判断し対応している。	利用者への寄り添うケアから布パンツとパット使用で排泄支援を行っている。夜間は大きめのパットで対応し無理に起こさず『見守り』を重視し、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、リハビリ体操を行い、又天気の良い日には、散歩に出かけたりと、便秘の予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は、一日おきに入浴して頂いているが、本人の要望や便汚染時には、シャワー浴等を行っている。	ほぼ一日おきの入浴であるが利用者の希望にそった支援を行っている。菖蒲・バラ・ゆず等をうかべた季節を感じるお湯も楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の身体の状態を考慮して、傾眠時には居室で休んで頂いたり、臨機応変に対応している。また、日中天気の良い日には、散歩に出掛けたり、レクリエーションで体を動かして頂き、安眠に繋がる取り組みも、行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、誤薬のない様に職員皆が心がけている。又、錠剤の飲みにくい方には、病院で散剤にして処方して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備・片づけ、洗濯物干し・たたみ、新聞折り等、得意なことを、無理のない範囲で手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は、本人の要望を考慮し、ご家族様にも了承を得て、買い物や食事等に出掛けている。一対一で出掛けることでゆっくりと対話を持ち、気分転換を図っている。	散歩が日課になっている。一人ひとりの要望を聞き取り家族との相談の下、映画・買い物・カラオケ・ボーリング・お誕生日の夕食等のいろいろな要望を実現する計画がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時々外出を行い利用者様が必要な物を本人に購入して頂いたり、常に財布を携帯して頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をして欲しいと訴えがある時連絡させて頂く。年賀状を書いて頂き送る支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやトイレに花を飾ったり、季節に合わせてひな人形や七夕飾りなどの居間や台所をディスプレイします。快い音楽を流し口ずさんで頂いたり工夫している。	開口部より遊歩道が整備された庭が広がり、季節を感じることができる居間にはソファで利用者がゆったりと寛ぐ姿がみられる。広い廊下の両サイドに配置された居室は事務所から見渡せ、利用者の夜間の見守り・安全対策につながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性を考えたり男性利用者様の居場所を考え支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていた物や本人の思い出のあった物を持ってきて頂き居心地良い居室をつくっている。	各部屋には位牌・CDラジカセ・筆筒等、馴染みのものや好み・思い出の品を持ち込み、居心地よく過ごせる部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室トイレふる場などに名札を付けたり庭に出る時に危険がない様手すりや足台をつけるなど工夫している。		